



シンポジウム 「北極域の雪氷と大気」のお知らせ

極域研究連絡会

趣旨: ソ連邦の崩壊に伴い、近年、北極海やシベリア等へ比較的自由に観測調査が行えるようになり、日本でも北極域に関する調査研究が大学や研究機関で活発に取り組まれてきています。また、北大西洋の10年スケールの変動は大気-海洋-海水システムの変動によるものではないかとの考えも提示されています。身近な所では、ユーラシア大陸の春の積雪と日本の夏の天候についての議論もあります。

そこで、1995年秋季気象学会（大阪）に合わせて、「北極域の雪氷と大気」と題するシンポジウムを開催したいと思いますので、北極域での大気、雪氷（氷床、凍土も含む）、海水及びそれらの相互作用に関する観測、データ解析、モデリング等の研究成果をお持ちの方、奮ってご応募下さい。ここで北極域とは北極海のみでなく、ユーラシア・グリーンランド・カナダ等周辺領域まで含めます。レヴューや研究計画に関する講演も歓迎いたします。学会とは異なり、1件20分程度の発表時間を確保する予定です。学会の発表と重

複しても結構です。

日時: 1995年10月19日（木）9:00~13:00（予定）

場所: 大阪市中央区大手前4-1-76

合同庁舎4号館(大阪管区気象台のあるビル)
講堂（4階）

地下鉄谷町線または中央線、谷町4丁目下車
すぐ

申込先: 札幌市北区北10条西5丁目

北海道大学大学院地球環境科学研究科

山崎 孝治 TEL: 011-706-2361

FAX: 011-726-6234

締切り: 8月23日(水) 学会予稿集の締切りと同日。

A4で1~4枚程度の予稿を添付願います。

事務局: 和田 誠 (国立極地研究所)

TEL: 03-3962-5580

小西啓之 (大阪教育大学)

TEL: 0729-76-3211 (内) 3121

編集後記: 春の気象学会も盛会の内に終わった。4つの会場すべてがほぼ満席の状態、303件にもものぼる発表があった。このような立派な大会を企画・準備し実行された、講演企画委員会、大会実行委員会、学会事務局他のご努力には頭の下がる思いである。

さて、既に多くの読者の方はお気づきと思うが、本年1月より本誌に新たに「情報の広場」欄が新設された。会員から寄せられた、気象学の研究や調査などに有益な諸分野の情報や話題を掲載する。早速いくつかの興味深い情報も提供されているが、会員の皆様からもしどしどし情報をご提供いただき、毎月1回の散歩が待ち遠しくなるような広場の運営にご協力をお願いしたい。

4月号の「情報の広場」欄には、東大生産研の沖さんが気象予報士試験合格者と日本気象学会の関係に関

する興味深い調査結果を掲載して下さっている。沖さんは、単に情報の提供にとどまらず、学会の将来像を真剣に考えていく必要性を指摘されている。4月号が届いてまもなく春季大会が始まり、シンポジウムと学会賞・藤原賞受賞者の方々の講演に挟まれてあわただしく執り行われる総会に出席してみて、講演発表と同様、実質的な議論を行うための時間不足を感じた。本誌の編集委員としては、このような時間不足の問題をも含めて、学会の将来のあり方について、幅広いスペクトルを持つ会員の方々に議論していただく場として、本誌の「会員の広場」欄をもっと積極的に利用していただければと思うのである。残念なこと、「会員の広場」欄で学会の運営に関する話題が議論されたことは、93年9月号以来無い。 (新野 宏)